

(別紙様式4)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
新潟工科専門学校		平成5年12月6日	仁多見 透		〒950-0932 新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-287-3911		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月22日	理事長 池田 弘		〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025-210-8565		
目的	大工職人として伝統的な技と最新技術を身に付け、共同作業での実際の建築物を作る実習を通して業界が求める木造建築技術者の育成を目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士
工業	工業専門課程		建築大工科		平成23年文部科学省 告示第166号		-
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1752	640	224	864	24	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		49人		2人	4人	6人	
学期制度	前期: 4月1日から9月30日 後期: 10月1日から3月31日			成績評価	成績表: 有 成績評価の基準・方法 100点満点換算で、A(100~80)、B(79~70)、C(69~60)、D(60未満)、期末考査・提出課題・授業態度により評価		
長期休み	夏 季: 3週間 冬 季: 2週間 春 季: 2週間			卒業・進級条件	100点満点換算で、A(100~80)、B(79~70)、C(69~60)、D(60未満)、期末考査・提出課題・授業態度により評価		
生徒指導	クラス担任制: 有 長期欠席者への指導等の対応 定期的に状況確認、また、その状況に合わせ指導・アドバイスを行う			課外活動	課外活動の種類 各種ボランティア、地域活性化のための活動 サークル活動: 無		
就職等の状況	主な就職先、業界等 工務店、建設会社他 就職率^{※1}: 100% 卒業者に占める就職者の割合^{※2}: 84.6% その他 内部進学率15.4%(建築士専攻科1年制) (平成 27 年度卒業者に関する平成28年5月1日 時点の情報)			主な資格・検定等	3級建築CAD検定 2級建築施工管理技術検定(学科) 建築大工技能士2・3級		
中途退学の現状	中途退学者 0名 平成27年4月1日 在学者 48名 (平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 在学者 48名 (平成28年3月31日 卒業者を含む)		中退率 0%				
	中途退学の主な理由						
	中退防止のための取組 担任制・スクールカウンセリング体制の採用						
ホームページ	URL: http://www.nit-web.net						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針を次のとおりとする。

1. 建築大工科は「伝統的な技と最新の技術を身に付けた建築施工技術者」をコンセプトとして掲げている。その為、あらゆる方面からの有識者、技術者の参画を基本として組織する。
2. 企業や業界団体からは建築大工科の特性から次の分野からの参画を図る。
 - ◆建築士の品位の保持及び事業の進歩改善や建築文化の進展で、広く社会公共の福祉増進に寄与することを目的としている業界団体(新潟県建築士会)
 - ◆新潟県内の公共工事・リノベーション工事を事業内容としている建設会社(国際総合計画)
 - ◆新築・増改築・リフォーム・リノベーション・店舗改装等を事業内容としている工務店(大井)
3. 建築大工科の目指す人材像、目標資格、カリキュラムの相互理解に努める。
 - ◆建築大工科は伝統的な技と最新技術を習得した建築技術者の育成を目指すことへの理解。
 - ◆建築大工科で取得すべき技術・技能・創造力を理解。
 - ◆建築大工科のカリキュラム内容を理解。
4. 建築大工科の目指す人材像を理解すると共に、各分野の専門企業・団体の立場から現在及び将来求められている職業人としての資質をカリキュラム編成に反映する。
5. 学校はそのカリキュラム編成としての意見を集約し改善する。

以上

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月30日現在現在

名前	所属
仁多見 透	新潟工科専門学校 教務部
細海 幹人	新潟工科専門学校 教務部
池田 保紀	新潟工科専門学校 事務局
渡部 和久	新潟工科専門学校 教務部
渡辺 斉	社団法人 新潟県建築士会
大井 淳	(株)大井

(開催日時)

平成27年度開催状況

第1回 平成27年8月6日 10:00~12:00

第2回 平成27年9月11日 10:00~12:00

2. 主な実習・演習等		
(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)		
教育課程編成委員会の意見をもとに改善されたカリキュラムで、その分野で現在活動している専門技術者を有する企業から派遣された講師により直接指導を受ける。それにより、最先端の技術を身に付け、社会が求めている職業人としての能力と人間力を修得することを基本方針とし、以下の手順で連携を進めていく。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業から派遣された知識・技術・経験を有する専門技術者が指導にあたる。 2. 学校の教育方針と社会のニーズを明確にし、授業内容を検討する。 3. 授業開始前にシラバスを作成し、学生に伝達する。 4. 学生の個々のニーズ(学生が目指す職種)に応じた指導を心がける。 5. 評価について、担当専任教員と協議し学生へフィードバックする。 6. 評価をもとに学生に対しアドバイスをすることで今後の学修に繋げる。 7. 結果を分析し、教育課程編成委員会へフィードバックし、カリキュラム編成に役立てる。 		
科目名	科目概要	連携企業等
架構実習Ⅰ	大工道具の使用法、継手・仕口など大工として必要な技能の修得、現場での仕事の流れや共同作業の重要性などを工務店の棟梁から直接指導を受ける。又、実際の現場などを見学し、大工仕事を肌で感じながら卒業後の職業としてのイメージを持つ。	株式会社 大井
3. 教員の研修等		
(教員の研修等の基本方針)		
教員(専任教員、兼任教員)は常に企業等と連携し、専門分野における最新の知識と技術の習得に向けて次のようなことを基本方針とする。		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年度が始まる前に身に付けたい知識・技術など以下の項目から目標設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ◆大工技能(建築大工技能検定2級) ◆CAD操作技術(2次元CADソフト、jw-CAD) ◆建築設計技術(建築士) ◆建築施工管理技術(建築施工管理技士) ◆伝統建築の知識(数寄屋、古民家、町屋、寺院) ◆学校運営における基本的知識(学生指導、人材育成、経営意識など) 2. 事前に年間行われる研修・セミナーなどの調査を行う。 3. 研修・セミナー受講スケジュールを計画する。(計画については教務部に提出) 4. 研修・セミナー受講後は学生指導、学科運営にどのように活かせるか検討する。 5. 研修・セミナーで得た知識や情報を他の教員と共有し学校全体での学生指導に活かす。 		
4. 学校関係者評価		
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)		
平成27年9月30日現在		
名前	所属	
小倉 睦巳	(株)国際総合計画	
荻荘 賢一	(株)荻荘電機	
平田 俊之	金井度量衡(株)	
油井 康二	(株)めだかの学校	
近藤 一彦	(株)イトラスト	
(学校関係者評価結果の公表方法)		
URL: http://www.nit-web.net		

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ、学生の手引き、パンフレット、募集要項、求人のための学校案内、オリエンテーション資料、キャンパス周辺ガイド、各種奨学金制度・教育ローンのご案内、学生寮アパートガイド、
URL: <http://www.nit-web.net>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築大工科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			建築計画Ⅰ	各部の寸法 集合住宅計画、地域計画について学習する	1通	32		○			○		○		
○			建築計画Ⅱ	各種建築物の各論（事務所、商業施設、公共施設、児童福祉施設など）について学習する	2通	32		○			○		○		
○			建築史	日本建築史、西洋建築史、近代建築史について学習する	1通	32		○			○			○	
○			住宅計画演習	住宅の計画について学習し、住宅を設計できるように学習する	1前	32			○		○		○		
○			環境工学	室内環境、人体の温熱感覚、戸外の気候、気温、湿度、日射、熱伝熱、断熱、結露、採光、照明、換気と通風、音、振動の各種分野について学習する	1通	32		○			○		○		
○			建築設備	総論、給水設備、排水設備、給湯設備、ガス設備、消火設備、空調設備、電気設備	1通	32		○			○			○	
○			構造力学Ⅰ	力の合成・分解、力のモーメント、力の釣合い、反力・応力、静定梁の解法、静定ラーメンの解法を学習する	1通	64		○			○			○	
○			構造力学Ⅱ	静定トラスの解法、応力度、断面の性質、不静定構造物の解法を学習する	2通	32		○			○			○	
○			一般構造Ⅰ	木構造（基礎、力学的性質、物理的性質、継手と仕口、金物類）について学習する 各部構造（屋根、壁、天井、その他）について学習する	1通	32		○			○			○	
○			一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート造の骨組み・仕上げについての仕組み学習する。・鉄骨造の骨組み・仕上げについての仕組み学習する	2前	16		○			○			○	
○			住宅構造演習	住宅の構造、部材名称等を覚える 木造軸組み模型制作により、在来工法の仕組みおよび部材名称を確かなものとする	1前	48			○		○		○		
○			木造知識演習	木造を代表とする、住宅における知識を幅広く学ぶ	1後	48			○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必修	選択 必修	自由 選択						講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			木造計画演習	木造大工の基本である勾当玄法の知識と木造の継ぎ手の種類と形について学習する	2通	96			○		○	○			
○			建築材料	木材、木材加工品、コンクリート（セメント、骨材）、鋼材、その他の金属、タイル、ガラス、防水材、塗材などの種類とその特徴を学習する	1通	32			○		○	○			
○			建築施工Ⅰ	施工計画、管理計画、地盤調査、地盤調査の方法、仮設工事、地業及び基礎工事鉄筋コンクリート工事、鉄筋工事、補強コンクリートブロック工事、レンガ工事について学習する学ぶ	1通	64			○		○	○			
○			建築施工Ⅱ	組立式鉄筋コンクリート工事、木工事、防水工事、屋根工事、左官工事、タイル工事、石工事、塗装工事、金属工事、建具工事、ガラス工事、内装工事、施工機械器具、施工用語	2前	32			○		○	○			
○			建築積算	土工事、躯体工事、仕上げ工事・設備工事などの数量の数量計算方法及び表現方法を学習する	2後	32			○		○		○		
○			建築法規Ⅰ	建築基準法、同施行令、総括規定、雑規定、単体規定、都市計画法、その他の設備関係規定を学習する	1通	64			○		○	○			
○			建築法規Ⅱ	建築基準法、同施行令、集団規定、建築士法、消防法、建設業法を学習する	2通	32			○		○	○			
○			設計製図A	建築製図法、木造図面の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習し、オリジナル木造住宅の作図を行う	1通	96					○	○	○	○	
○			設計製図B	RC造の図面の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習し、RC造特殊建築物のプランニング及び作図を行う	2前	48					○	○		○	
○			設計製図C	スケッチアップを使い3DCADを学ぶ	2前	48					○	○		○	
○			建築CAD設計Ⅰ	CADの基本操作を学んだ後、建築図面の表現方法を学習する。・S造の一般図の書き方（平面図、断面図、立面図）を学習する	1通	96					○	○		○	
○			架構実習Ⅰ	在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につける	1通	192					○	○		○	○
○			架構実習Ⅱ	在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につける	2通	192					○	○		○	○
○			建築実習Ⅰ	業界でも評価の高い2級技能士の受験レベル到達を目指した実習で建築大工としてのより高い技能を身に付ける	2通	144					○	○		○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			材料実験	細骨材・粗骨材のふるい分け試験、細骨材・粗骨材・セメントの比重試験、骨材の吸水率試験、スランプ・空気量測定試験、塩分測定試験、コンクリート圧縮試験、配合設計計算	2前	24			○	○				○	
○			就職実務Ⅰ	就職活動を進めるに当たって必要な一般的知識を習得する	1通	48		○			○			○	
○			就職実務Ⅱ	就職活動を進めるに当たって必要な実践的知識、技術を習得する	2通	32		○			○			○	
○			PC実習	ワード、エクセルをはじめパワーポイントなどパソコン操作技術を身に付ける	2通	48				○	○				○
合計			30 科目		1752 単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。